

受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度

一般公募制推薦選拔入学試験問題

国語

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題用紙および解答用紙を開いてはいけません。
- 二、この表紙を除いて、問題用紙は四ページあります。また、解答用紙は一ページあります。
- 三、問題用紙および解答用紙の印刷不鮮明、ページの不足や汚れに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 四、受験番号と氏名を所定の全ての欄に記入してください。
- 五、解答は、解答用紙の指定された解答欄に記入してください。指定された解答欄以外に記入したものは採点しません。
- 六、表紙および問題用紙の余白や裏面は、適宜下書きや計算などに用いて構いません。
- 七、配付した用紙は全て、試験終了後回収します。



受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国語 (二／四)

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

東西南北、さまざまな土地に生きる「普通の人々」の「日々の暮らし」を、民俗学は追いかけてきた。その蓄積は膨大であり、ありきたりなものもユニークなものも含まれるが、どちらも生活事実として等しく存在価値がある。それらをきちんと①ナガめるなら、「日本」は(も)「広い」―「日本」は決して単一ではない―という事実が容易に④首肯されるだろう(本書の紙幅でどこまで紹介できるか心もとないが)。この列島上には、今日も多様な暮らしが繰り広げられ、それは人々と土地の複雑な来歴の結果である。同様に、しばしば「日本」と対比される「アジア」なり「西欧」なりといった世界各地も、きちんと観察していけば多様な暮らしが今も息づいているのであり、「日本」は〇〇である」「アジアは△△である」といった類の言明は、あくまで論者の頭の都合による単純化に過ぎず(ヒトの能力は有限なので単純化は避けられないのだが)、転変して止まない A ということを、しっかりと認識しておこう。

能力の有限性という問題に立ち入ったので、本書が前提する人間観について一言しておこう。それは、「中途半端に賢い生き物」というものだ。ホモ・サピエンスと呼ぼうが万物の霊長と呼ぼうが、ヒトが自然に属する生命の一つであることは間違いなく、自然法則は人間存在を貫いている。呼吸も摂食も排泄も、なしですませるわけにはいかないのが人間という存在だ。

その一方、ヒトは神のごとき全知全能ではないものの、無知無能というわけでもなく、相応の認識力と実践力をもって世界と対峙できる。ヒトは「中途半端に賢い」。わけても、「ことば」という能力を媒介として世界を認識し、経験を蓄積し、他者と交渉できることは、ヒトという存在のユニークな特徴だ。⑥このことが、人の世の法や秩序をもたらし、芸術や宗教や思想を可能にしたわけで、人類文化史は「ことば」と共にあるといって過言ではない。だが、③そこに落とし穴もある。「ことば」は本質的にゲームの規則のようなヴァーチャルな存在で、その「ことば」に基づいて産み出された人間のルールには、自然法則のような客観的根拠が存在しない。これが大問題なのだ。人の世のルールは、「自然」に制約されないが故に自由に②テンカイするが、人々に進歩をもたらすばかりでなく、時に、その生存を疎外してしまう。先を急ぐと、その最たるものが「資本主義 capitalism」であり、それは人類に数多の利便をもたらしたと同時に、無数の「生き辛さ」を引き起こしてもいる。ヒトは中途半端に賢いので、それなりの変化には対応できるのだが、それも「生き物」という「自然」の制約の範囲内でのこと。それに対して、「資本」は「自然」に制約されない仕組みであるため、ヒトのコントロールを飛び越えて際限なく暴走してしまう。

B、「資本」がもたらす果実の甘さを忘れられないヒトは、「生き物」としての自己を犠牲にして、「資本」に邁進してしまう。「生き物の時間」と「資本の時間」、二つの時間の分裂に、ヒトは「 C 」として迷い続けるほかない。これが、私たちの現在をとりまく根本問題なのだ。

「生き物の時間」と「資本の時間」に引き裂かれる私たち。考えれば考えるほどクラクラしてしまいような難題だが、それでも、腹が減ったらメシは食わねばならないし、風雨を凌ぐには住まいを確保しなければならいし、そうした暮らしを支えるには、きちんと③カセがねばならない。日々はどこまでも続いていく。ならば、人々がこの俗なる④些事にまみれた日常を手放さず、そこから広がる世界を捕まえていく手立てはないものか。そう考えたのが日本民俗学の創始者・柳田國男(一八七五―一九六二)である。

日本民俗学が形を整えつつあった一九三〇年代半ば、柳田とその仲間たちは、⑤大阪・懷徳堂を会場に、二五週連続ライブ「日本民俗学 廿五回連続講習会」を開催する。その一発目である一九三六年九月一九日、連続ライブへの意気込みを語る柳田の講演タイトルは「政治教育の為に」だった。

この講習会は、日本としても最初の企てであります。将来多分は大阪の歴史の上に、記念せられる出来事の一つとなるであろうと思います。其会場には、他にも適当な場所を世話しようと、親切に言って下さった方もありましたが、我々はなお是非ともこの懷徳堂でなければならぬと存じまして、無理に願って爰を拝借することにな

受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国語 (二／四)

りました。懷徳堂の由来に就いては、皆様の方が私よりもよく知って居られます。是はこの大都市に於ける、^(注1) 平民の学問の発祥地なのであります。国中有数の家庭の子を集めて、未来の学者を養成しようという事業では無く、弘く一般の市民に時世を見るの明を与え、単に字を識り書を読む能力以上に、物の道理のわかる人を、出来るだけ多く造ることが、創立者の意図でありました。(『柳田國男全集』第二九卷、筑摩書房、二〇〇二、四九四頁。現代仮名づかいに変更した)

江戸中期の儒学者・中井竹山らによって支えられた懷徳堂が「平民の学問の発祥地」すなわち「弘く一般の市民に時世を見るの明を与」える場所だった、だからわざわざライブ会場に選んだのだ、そう語る柳田は、自らが^④ ヒキいる「日本民俗学」が「平民の学問」の後継者であることを高らかに^⑤ センゲンする。そして、^⑥ 「現代の政体」は「平民の学問」を求めて止まないのだ、という。

歴史は以前の世の中に於ては、^(注2) 明君賢相の学問と認められて居りました。所謂^(注3) 草莽の士の地位も権能も無い者が、たまたま其知識を修得しますると、往々にして憂憤し、又危言しなければならなかったのであります。ところが今や時代は一変致しました。歴史を万人必須の普通学と定められた朝廷の思し召しは、^⑦ 予めこの現代の政体に備えられたのであります。個々の政策は技術であり、又各人の考案でありまして、是が相競い相争うのは、些しでも不思議なことはありません。それを判別し取捨するのが政治で、その権能は我々にも附与せられて居るのであります。はやく教育によって正しい判断をする途を授けない限り、悪人で無くとも屢々失敗します。選挙が粛正を必要とするなどは、言わば一国の学問の恥であります。地理が我々の今居る場所を意識せしめる様に、歴史は今日が如何なる時であるかを、明確に会得せしむべき役目を持って居ります。(同前)

大正デモクラシーで普通選挙が実現された「現代の政体」においては、誰もが(この時点ではまだ男子のみだが)政治の選択に関わるようになる。だが、その選択の根拠は何だろうか。正しい政策を選別するには、「今日が如何なる時であるか」すなわち時世の認識が不可欠であり、それをもたらすのが「歴史」だという。つまり、「普通の人々」の「日々の暮らし」が現在に至った来歴を解き明かすガクモンが、「普通の人々」が普通選挙によって政治参加するための「万人必須の普通学」になるというわけだ。「政治教育のために」というタイトルの含意はここにある。民俗学は、単に古き良きを^⑧ 愛玩する^(注4) 好事家の営みなのではない。生活事実を手がかりに、「現在」を照らし出し、その上に「未来」を展望する、市民としての私たちに不可欠な基礎教養なのだ。

^⑨ このような初志を、その後の民俗学がどれほど貫き通せたかという点、まだまだ不十分だと筆者は思う。ただ、人々の来し方行く末を、身の回りの生活事実から見つめ直すという民俗学のスタンスは、悩み多き現代を生きる私たちにとって、今なお大切な一つの「迷い方」かもしれない。この意味で、じつは民俗学は、歴史学や社会学や経済学や法学や……といった諸学が「学問分野 discipline」すなわち個別専門分野として存在するものとはちよつと違った位相に存在する。むしろ、「資料としての私(たち)」を起点に、個別専門分野化するガクモンを問い返し、問い改め続けようとするところに、人々の生活の「まるごと」を引き受けようとする民俗学の本願があるのだと考えたい。^⑩ 民俗学はガクモンだがガクモンブイヤではないのかもしれない。多分、それでかまわない。

(菊地 暁『民俗学入門』による)

- (注1) 平民 〓 特別の地位や権力のない普通の人々
(注2) 明君賢相 〓 すぐれた君主や賢明な大臣
(注3) 草莽の士 〓 民間の人物
(注4) 好事家 〓 風がわりなことに関心を持つ人

受験番号	氏名
------	----

令和8年度 一般公募制推薦選拔入学試験問題

国 語 (三／四)

問一 傍線部①、②、③、④、⑤のカタカナは漢字に直し、⑥の漢字は読みを書け。

問二 傍線部③「首肯」、④「些事」の意味として最も適当なものを、次のア～オのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ③ | 「首肯」 | ア | 証明 | イ | 検討 | ウ | 否定 | エ | 反省 | オ | 納得 |
| ④ | 「些事」 | ア | 悪事 | イ | 小事 | ウ | 行事 | エ | 私事 | オ | 家事 |

問三 空欄 A に入る最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | |
|---|--------------|---|---------------|
| ア | 単純な現実そのものである | イ | 単純な現実そのものではない |
| ウ | 複雑な現実そのものである | エ | 複雑な現実そのものではない |

問四 傍線部③「このこと」が指示する内容を四十字以上、五十字以内で説明せよ。

問五 傍線部③「そこに落とし穴もある」と述べる筆者の考えとして**適当でないもの**を、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|---|--|
| ア | 「ことば」というものは様々な文化を生み出したものだが、人間が作り出した仮想的な存在である |
| イ | 「自然」に制約されない人間世界のルールであっても、生活事実として等しく価値ある存在である |
| ウ | 「生き物」である人間によって作られたルールが、ともすると人間の生存をおびやかすことがある |
| エ | 「資本主義」を知ってしまった人間は、生き物としての限界を超えて突き進んでしまうことがある |

問六 空欄 B に入る最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | やはり | イ | まるで | ウ | しかし | エ | そして | オ | または |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|

問七 空欄 C に入る適当な語句を、文中から十字で抜き出して答えよ。

問八 傍線部③について、柳田たちが会場を懷徳堂にした理由を五十字以上、六十字以内で答えよ。

問九 傍線部③について、このように述べる柳田の考えとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|---|---|
| ア | 日常生活を踏まえた上で現代社会の課題を考え、政治に生かしていくことが国の責務である |
| イ | 普通選挙が行われる現代の国民には、正しい政策を選別するための高度な教育が必要になる |
| ウ | 時代は変わり平民が国を動かすことになったため、平民の歴史を学ぶことが最重要とされる |
| エ | 現代とはどんな時代なのかを認識する力を持つために、一般の庶民も歴史を学ぶべきである |

問十 傍線部③について、筆者が考えている「民俗学」の営みを端的に表現している箇所を、文中から三十五字で抜き出し、最初の十字を答えよ。

問十一 傍線部③について、こう述べる筆者の考えとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|---|---|
| ア | 民俗学は民衆の生活のすべてが研究対象となるもので、特定分野におさまる学問ではない |
| イ | 民俗学の研究は始まったばかりであり、まだきちんと整理された個別学問分野とは言えない |
| ウ | 民俗学の研究方法には決まったやり方はなく、個別専門分野との関連づけから深めるものだ |
| エ | 民俗学へのアプローチは多面的で、他の研究分野の成果を集積したところから始まるものだ |



受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国語 (四／四)

二、次の①～④の傍線部の漢字の読みを書け。

- ① 大金で名画を購う。
- ② 恭しい態度で客を迎える。
- ③ 世間に流布する。
- ④ 金銭の貸し借りを相殺する。

三、次の①～③の意味に当てはまる「」内のことわざ・慣用表現の空欄に、適切な漢字二字を、それぞれ書け。

- ① 急に元気がなくなりうちしおれるようす 「に塩」
- ② 我慢強くやれば最後には成功することのたとえ 「石の上にも」
- ③ いい着物を着れば誰でも立派に見えることのたとえ 「にも衣装」

四、次の①～③の傍線部の漢字として正しいものを、ア～カのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ① 車で道路をジヨ行する。 ② 突ジヨとして現れる。 ③ 目の前の障害をジヨ去する。
- ア 序 イ 徐 ウ 除 エ 叙 オ 如 カ 助

五、次のア～エの傍線部で、意味用法が(例)と同じものを一つ選び、記号で答えよ。

(例) 休み時間にもでも相談に来なさい。

- ア 散歩でもして時間をつぶそう。 イ 何回呼んでも返事がない。
- ウ それほど暖かでもない土地だ。 エ 彼は本校の生徒でもある。

六、次の①、②の送り仮名の付け方として正しいものを、ア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ① おとしいれる ア 陥としいれる イ 陥しいれる ウ 陥いれる エ 陥れる
- ② やわらかい ア 柔わらかい イ 柔らかい ウ 柔かい エ 柔い

七、高校で放送部に所属しているAさんは、渡されたメモをもとに、文化祭の中で行われるステージ企画の、一般来場者向け校内放送の原稿を作成している。次の文章はその原案である。空欄Ⅰには十五字以上、二十五字以内で、空欄Ⅱには十字以内で文章を補って原稿を完成させよ。

【放送原稿 案】

ご来場の皆様へご案内申し上げます。

本日午後二時より、本校百周年記念ホールにて、吹奏楽部と合唱部のコンサートを開催いたします。

その時の課題曲とともに、映画音楽の名曲を数曲演奏します。また、今年新入部員が入り、二年ぶりに復活した合唱部も、コンクールに向けて練習している曲を披露します。

皆様のご観覧を Ⅱ 。

【メモ】

- 吹奏楽部と合唱部のコンサート
- 午後2時から
- 百周年記念ホール
- 吹奏楽・・・県コンクール金賞(8月)
- 課題曲と映画音楽
- 合唱部・・・2年ぶり、コンクールに向け練習中



受験番号		氏名	
------	--	----	--

	総 点
--	--------

①	める
②	
③	が
④	いる

いる

⑥

問四

問八

①	う
②	しい
③	
④	

④

①
②
③

③

①	
②	
③	

③

1111

①
②

②

[illegible]

[illegible]

国語

工学部・情報学部・芸術学部
(一般公募制推薦)

一	問一	①	眺(める)	②	展開	③	稼(が)
		④	率(いる)	⑤	宣言	⑥	あいがん

問二	③	オ	④	イ
----	---	---	---	---

問三	エ
----	---

問四	ヒトが「ことば」という能力を媒介として世界を認識し、経験を蓄積し、他者と交渉できるようになったこと【解答例】
----	--

問五	イ
----	---

問六	エ
----	---

問七	中途半端に賢い生き物
----	------------

問八	「日本民俗学」が「平民の学問」の後継者であることを自認する柳田は、「平民の学問の発祥地」で講習会を開催したかったから【解答例】
----	---

問九	エ
----	---

問十	生活事実を手がかりに
----	------------

問十一	ア
-----	---

二	①	あがな(う)	②	うやうや(しい)	③	るふ
	④	そうさい				

三	①	青菜	②	三年	③	馬子
---	---	----	---	----	---	----

四	①	イ	②	オ	③	ウ
---	---	---	---	---	---	---

五	ア
---	---

六	①	エ	②	イ
---	---	---	---	---

七	I	八月に行われた県のコンクールで金賞を受賞した【解答例】
	II	お待ち申し上げます【解答例】